

平成26年度最高裁判所総合評価審査委員会（第3回） 議事概要

開催日及び場所	平成26年10月1日（水）最高裁判所中会議室
委員	<p>委員長 中城康彦（明海大学不動産学部教授） 委員長代理 浦江真人（東洋大学理工学部教授） 委員 伊室亜希子（明治学院大学法学部教授） 林弘一（経理局営繕課首席技官） 吉田正紀（同 次席技官）</p>
委員からの意見・ 質問及びそれに対する回答等	別添のとおり

(別添)

1 福岡高地家簡裁庁舎新営建築工事の入札参加者の状況及び評価結果について

(1) 当該工事の入札参加者の状況及び評価結果説明

技術提案：「建物外壁（地下含む）の防水・遮水性能の確保に関する提案」

工事全般の施工計画：「敷地周辺の配慮に関する提案」

(2) 委員からの主な意見は以下のとおり

(外装部の防水性につき、外装材間の接合部に関する提案について)

【委員】

外壁の防水対策として笠木について提案されているが、そもそも笠木は外壁の一部なのか。

【事務局】

笠木はプレキャストコンクリートの壁と屋根の間にある部材である。建物の外壁の端部であり、外壁の一部であることから、提案の範囲内と考えている。

【委員】

妻側だけなのか。それとも、長手方向の納まりは、妻側と同じなのか。

【事務局】

妻側とは異なり、下階の庇の奥行きに合わせて一番上の笠木も庇の先まで伸びるような構造になっている。プレキャストコンクリートの壁と鉄筋コンクリートの壁の間から持ち出しを支えるための鉄骨下地を設け、その上に捨て笠木を設けるような仕様となっている。そこで、長手方向と同様に妻側にも捨て笠木を設けて隙間を塞いだらどうかという提案がなされた。

【委員】

それについては図面に表記がなかったのか。

【事務局】

長手方向には捨て笠木と表記されているが、妻側には表記されていなかった。

(地下躯体外周部において、外防水を実施する提案について)

【委員】

C社とD社の提案は、確実に施工されているかについて、確認できないという危険性はないか。

【事務局】

慎重に施工するとは思いますが、コンクリートが打設されてしまうため外側に関しては確認ができないということになる。

【委員】

確認はできないが、一定の効果はあるだろうと判断したということか。

【事務局】

そうである。

2 福岡高地家簡裁庁舎新営電気設備工事の入札参加者の状況及び評価結果について

(1) 当該工事の入札参加者の状況及び評価結果説明

技術提案：「機器・器具類の取付・据付方法等の品質向上に関する提案」

工事全般の施工計画：「各施工段階における試験・確認方法に関する技術的所見」

(2) 委員からの主な意見は以下のとおり

(機器・器具類の取付・据付について正確性・耐震性に配慮し、確実にを行うための、適切かつ具体的な提案について)

【委員】

吊りボルトのねじ込み方法に関する提案の評価を、標準案と同程度としているが、履行しなくてはならないのか。

【事務局】

そうである。

【委員】

今回提案された内容では、施工範囲と全数確認の方法が明確ではないが、施工段階で、例えば、範囲について発注者と受注者の認識が相違する場合、問題が起こる可能性はないか。

【事務局】

確認範囲については、受注者の負担にはならない範囲で、実現性のある提案となるように協議することになると考えている。

【委員】

契約の段階で施工範囲が決められないのであるから、提案を採用しないという判断はないのか。

【事務局】

そのような判断も考えられるが、実施する分には、確認ができれば正確性を確保できる提案であると考えたため、標準案と同程度と考えた。

【委員】

施工範囲と全数確認について、契約後の協議に残すということか。それでは、契約上拘束力を持ちうるのか、規範性があるのかという疑問が残る。

また、提案者は施工範囲を任意に設定し、そのコストも含めて積算した上で、入札に参加するということであれば、技術的にもコスト的にも公平なのか疑問。他社は標準的なもので安全性等は確保できるという前提の提案であると思うが、範囲も効果も不明な状態で、提案の有効性を判断するというのは、問題が残るのではないか。

以上から、実施しないということで良いのではないか。

【事務局】

ご意見を踏まえ、不採用に変更する。

3 福岡高地家簡裁庁舎新営機械設備工事の入札参加者の状況及び評価結果について

(1) 当該工事の入札参加者の状況及び評価結果説明

技術提案：「ダクト、配管及び機器・器具の耐震性能向上に関する技術提案」

工事全般の施工計画：「使用機材の管理に関する技術的所見」

(2) 委員からの主な意見は以下のとおり

(資機材の品質管理担当者の配置に関する提案について)

【委員】

ある提案では、「専任」という言葉が使われており、別の提案では、「担当者を選ぶ」と提案されているが、管理のグレード感を意識しているのか。

【事務局】

区分けについて、特に意識はしていない。

頼んでいた材料が搬入されれば、いつ、どのようなものが届いたか、現場スタッフの誰

かが確認するのであるから、担当者を専任することは、一般的なことと考えている。

ただし、資格を持つ担当者が常に確認するという提案については、有効なものであると判断した。

【委員】

了解した。

4 福岡高地家簡裁庁舎新営エレベーター設備工事の入札参加者の状況及び評価結果について

(1) 当該工事の入札参加者の状況及び評価結果説明

技術提案：「昇降路及び機械室内工事の施工精度及び耐震性の向上に関する技術提案」

工事全般の施工計画：「転落等の災害に対して工事中の配慮に関する技術的所見」

(2) 委員からの意見等はなし

5 神戸地家裁尼崎支部庁舎新営建築工事の入札参加者の状況及び評価結果について

(1) 当該工事の入札参加者の状況及び評価結果説明

技術提案：「連続庇（RC庇）の品質確保及び施工精度向上に関する提案」

工事全般の施工計画：「敷地内及び周辺地域への配慮に関する提案」

(2) 委員からの主な意見は以下のとおり

（庇の精度向上のための具体的な施工管理方法の記載が異なる提案について）

【委員】

具体的に精度を提案している提案者と、そこまで記載していない提案者もあるが、どのように考えたのか。

【事務局】

施工精度の管理方法まで記載している提案と、標準よりは精度が高くなる型枠を使うということだけを記載している提案があり、両者を同様に標準案を上回る提案として加点評価の対象と判断している。

【委員】

提案のとおりで了解した。

6 神戸地家裁尼崎支部庁舎新営電気設備工事の入札参加者の状況及び評価結果について

(1) 当該工事の入札参加者の状況及び評価結果説明

施工計画：「資機材及び機器等の品質管理についての提案」

(2) 委員からの主な意見は以下のとおり

【委員】

提案数が0の参加者があるが、なぜか。

【事務局】

提案数が0というのは、標準案で施工するということで、特に提案がないということである。

7 神戸地家裁尼崎支部庁舎新営機械設備工事の入札参加者の状況及び評価結果について

(1) 当該工事の入札参加者の状況及び評価結果説明

技術提案：「配管工事の施工品質向上に関する技術提案」

工事全般の施工計画：「施工計画から施工、試運転調整まで、各段階における品質管

理に関する技術提案」

(2) 委員からの主な意見等はなし

8 その他

(1) 発注スケジュール等について説明

(2) 委員からの意見はなし